



『デンチャー プラーク コントロール』

『複製義歯』

『バイトプレート療法』

『義歯の裏装』

『デンチャーフラーケ』

文写真・濱田泰三

(歯学部歯科補綴学第二講座)



活字離れが進み、学生も臨床家も本を読まなくなつた。もつとも情報源としては、本にとつて替わるもののがたくさん出回つてゐる。

出版社によれば、全国の多数の大大学教官の分担執筆による指定教科書が一番確実に売れるという。しかし医歯系では、教科書としては、まず基本的な情報を盛り込むことが優先される。

歯科補綴学の分野では、人生五十年時代に構築された学問・技術体系と、人生八十年時代の今日とでは、臨床の第一線においていろいろと教科書通りにいかないことが増えてきた。

このようなとき、教科書や分担執筆本では、なかなか自説を紹介する自著—五部作—は、今日の臨床における基本をなし、講座の研究、中でも院生(約十

名)のテーマは、いずれもこれらの本と密接に関係している。世の中には十年と経たずその内容が時代に合わなくなる本もあるが、幸か不幸かこの五部作の内容は、発表当初の新規性は失せたものの、臨床のスタンダードとして全国的に定着してきていることは、私の最も喜びとしているところである。

歯科補綴学といえば、今日まで義歯や冠、橋義歯などの製作法に終始することが多かつたが、この五部作はいずれも患者の立場を尊重して書かれているのが特徴である。今日、POS (Problem / Patient Oriented System) などと言われることの正に実践である。

義歯作りも耐久性や生体の老化を考えれば、フラーケコントロールや生体の順応などを避けられない。これらの概念を具

体化したものが、「デンチャー プラークコントロール」であり「複製義歯」である。

患者の口腔内で trial & error を繰り返し、至適な位置を求める義歯製作の術式は、今やスタンダードである。広島大学発信の全国区術式の一つといえよう。

「バイトプレート療法」は、頸関節症の保存療法の一つで今や臨床家の誰もが行うものである。

「義歯の裏装」は、建前の強い教科書にはあまり取り上げられないもので、タブーを犯しての出版といえる。この分野は、実際に材料メーカーにおける製品開発が最もホットかつ日進月歩の分野で、出版後五年経つた現在、我々の開発製品も含め増補改訂版の準備中のものである。

「デンチャーフラーケ」は、処女作のややアカデミック版といえる。これらのうち「複製義歯」は、現在インドネシア語版への翻訳がほとんど完了している。インドネシアの大学で教科書として指定されると聞いていた。イギリスの友人多数から、ぜひ英語版の出版を、と強く勧められており、次の課題はこのあたりにありそうだ。ぜひ実現したいものである。

広大発信の歯科補綴学がより完成していくためには、読者からの書評は一番参考になるもの



プロフィール

(はまだ・たいぞう)

◇一九四四年生まれ
◇一九七三年大阪大学大学院歯学研究科修了(歯学博士)
◇一九八一年広島大学教授
◇一九九六年エアランガ教育
熟章受章

◇専攻:歯科補綴学・オーラルリハビリテーション・老人
年歯科

である。

「デンチャーフラーケコントロール」
(B5判—三頁) 永末書店
一九八三年 一四〇〇〇円

「複製義歯」
(B5判—六五頁) 永末書店
一九八六年 一八〇〇〇円

「バイトプレート療法」
(B5判—一四頁)
日本医療文化センター
一九八八年 三〇〇〇〇円

「義歯の裏装」
(B5判—〇七頁)
日本医療文化センター
一九九一年 三二九六〇円

「デンチャーフラーケ」
(B5判—四五頁) 医歯薬出版
一九九一年 八〇〇〇円